

自己評価報告書

平成23年 5月 16日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20402015

研究課題名(和文)日本の人的資源と中国の再編・再生:戦後中国における日本人留用問題の総合的考察

研究課題名(英文)Japan's human resources and China's new foundation & rebirth: comprehensive research on Japanese staying in China after WWII

研究代表者

鹿 錫俊(LU XIJUN)

大東文化大学・国際関係学部・教授

研究者番号：20272784

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：中国 日本 東アジア 日中関係 戦後処理 留用

1. 研究計画の概要

日中戦争の終戦後、中国の国民党支配地域と共産党支配地域において、医者、技師、技官を中心とする多くの日本人技術者は両地域の当局に別々に徴用され、貴い人材として活用され、一部は1950年代に至るまで活躍していた。中国ではこれを「留用」と呼ぶ。本研究は学術調査に依拠して、次の諸問題を中心に総合的な考察を行う。

(1) 中国全土における日本人留用の基本的な様相を一次資料に依拠して解明するとともに、ケース・スタディーに基づいて、共産党地域と国民党地域という性格の異なる両地域における留用の実態とその相違点を具体的に比較しつつ、それぞれの地域における留用問題の特色を明らかにする。

(2) 国民党側と共産党側の内部資料に依拠して、「中国の内部評価から見た日本人留用者」という視角から、闇の存在として扱われた彼らに客観的な評価を与えつつ、戦後中国の再編・再生過程に寄与した日本人留用者の役割とそれに基づく中国人の日本観、日本人観を浮き彫りにし、日中関係の多面性を提示する。

(3) 「日本の人的資源の働き」という新しい視角から東アジアにおける戦後処理問題を再検討し、共産党側と国民党側の戦後構想をより明らかにする。そして、日本人留用の経験と日本人留用者との人脈は戦後日中関係の展開にどのような影響を与えたのか、現在の中華人民共和国と台湾の対日政策にどのような関連性をもたらしたのか、という問題を検証する。

2. 研究の進捗状況

(1) 実地調査の面では、主に下記の機関

で調査を行った。中国大陸：江蘇省档案馆、南京市档案馆、無錫市档案馆、鎮江市档案馆、徐州市档案馆、山東省档案馆、煙台市档案馆、威海市档案馆、浙江省档案馆、上海市档案馆、天津市档案馆、北京図書館、外交部外交档案馆、広東省档案馆、広州市档案馆、重慶市档案馆、重慶市図書館。台湾：国史館、中央研究院近代史研究所档案馆、国家図書館。香港：中文大学現代中国資料センター。

(2) 上記の調査により、下記の諸問題について多くの一次資料を入手し、解明できるようになった。江南地域の日本人収容所の運営。日本人技術者の留用基準と採用された後の待遇。留用された日本人の子女の教育。ある留用者子女学校の始末。日本人の留用をめぐる蒋介石の態度の変化。1949年の台湾における「日本人運用」案の決定過程。国共内戦終了後、中国共産党支配地域における日本人の概況、中華人民共和国建国初期における日本人政策。

(3) 米国においても、ハーバード大学、コロンビア大学、シカゴ大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、米国国会図書館などを訪問し、特に下記の3点で成果を得た。熊式輝文書、顧維鈞文書や中国共産党関係文書などの閲覧。東アジア国際政治に関わる所蔵文献の確認。視点と方法の吸収。

(4) 以上の調査と訪問の収穫を基にして、次のように研究成果の発信に努め、社会への還元に心掛けた。雑誌と論文集などでの学術論文の発表(計11件、約28万字)。学会、国際シンポジウムなどでの研究発表(計16件)。NHKなど報道機関による取材と学術番組の出演(計3件)。大学、大学院の教育における研究内容の活用と市民向け公

開講座の実施。

(5) 実地調査と学会出席などによって、研究者との学術交流を深め、研究目的の達成への人的ネットワークを一層強化した。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

(1) 当初設定した国民党支配地域と共産党支配地域に関するケース・スタディーの諸項目において、様々な障害を乗り越えて、調査を進めており、目標が達成できると自信を深めている。

(2) これまでの研究成果の発信は、質・量ともに肯定的な反響を受けており、海外からも注目されている。

(3) しかし、「今後の研究の推進方策」欄に示されているように、克服すべき困難もあり、「当初の計画以上に進展している」とはいえない。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 中国大陸では歴史資料の開放において、地域と機関によって対応が異なっており、また最近全般にわたって規制を厳しくする傾向にある。特に日本関係の資料は、日本人はもちろん、日本の大学で勤務している外国人に対しても開放を渋るところが多くなりつつある。これを打開するために、今後、歴史資料開放についての法律に基づいて忍耐強く交渉するとともに、現地の協力者を一層活用しなければならない。

(2) 台湾も含んで、各資料機関は資料の性格によって一回の調査に対する複製の枚数を制限するほか、多くの資料は複製を禁止され、手書きによる抄録しかできない。これと反対し、現在、本人は毎週8～9コマの講義を担当するうえ、研究科専攻主任や学部内外の諸委員会の公務が多く、調査に利用できる時間は不足している。この矛盾を克服するために、夏休みのほか、学期中の週末や祝日、大学祭を一層利用し、また重要な資料機関については調査を繰り返すつもりである。

(3) 2011年度が本研究の最終年度であることを常に念頭に置き、調査の推進とともに、研究成果の集大成に尽力していく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線) 代表的な研究成果をそれぞれ5件程度記入、他は省略。

〔雑誌論文〕(計10件)(含論文集等)

鹿 錫俊「日独伊三国同盟をめぐる蒋介石の多角外交」、『年報日本現代史』第16号、3 - 55頁、2011年、編集委員会依頼論文。

査読無

鹿 錫俊「1949年蒋介石“運用日本”政策的籌劃與實施」、『蔣中正日記与民国史研究』特集、18 - 36頁、2010年、査読有

鹿 錫俊「欧州情勢への対応と日独ソ関係への処置 1940年前後、太平洋戦争への中国の戦略」、『日本防衛省防衛研究所『戦争史研究国際フォーラム報告書：太平洋戦争と連合国の対日戦略 開戦経緯を中心として』』、99 - 118頁、2009年。査読無

鹿 錫俊“Changes in Japanese Strategy in 1939-1940 and the Internationalization of the Sino-Japanese War,” *Journal of Modern Chinese History*, Vol.2, No.1, June 2008, pp.21-40. 査読有

鹿 錫俊「国民政府对欧戦与結盟問題的対応」、『歴史研究』、2008年第5期、94 - 116頁、2008年。査読有

〔学会発表〕(計16件)

鹿 錫俊「關於中共東北解放区留用日本人の幾個問題」、『総統府国史館招待講演、2011年3月30日、台北・国史館

鹿 錫俊「蒋介石日記から見る旧日本軍人への処遇問題」、『日本国際政治学会2010年度研究大会、2010年10月29日、札幌コンベンションセンター

鹿 錫俊「蒋介石と中国のドイツ政策 重慶時代を中心に」、『東方学会、2010年5月21日、東京・教育会館

鹿 錫俊「戦後国共両党による日本人の留用と白団から見る蒋介石の対日政策」、『2010年2月24日、Stanford China Rains, Stanford University (USA)

鹿 錫俊「中国国民政府による日本人技術者留用の政策過程」、『China's challenges before and after the War of Resistance to Japan (Symposium)』、2009年11月30日、Queen's University, Department of History (Canada)

〔図書〕(計1件)

齋藤道彦、土田哲夫、鹿 錫俊ほか共著『日中関係史の諸問題』、223 - 246頁、中央大学出版会、2009年

〔その他〕

鹿 錫俊 NHKの取材を受け、「NHKスペシャル 日本人はなぜ戦争へ向かったのか」に出演、2010年11月、2011年1月

鹿 錫俊 NHKの取材を受け、「NHKスペシャル 葫蘆島への道 旧満州引き揚げ・運命の岐路」の制作に協力、2008年11月